

平成 27 年度シマフクロウ保護増殖検討会

議事概要

1 開催日時および開催場所

日 時： 平成 27 年 3 月 9 日（水） 14：00～17：00

場 所： 釧路地方合同庁舎 5 階 第一会議室

2 出席者一覧（敬称略）

<検討委員>

幸丸 政明	東京環境工科専門学校 校長
齊藤 慶輔	株式会社猛禽類医学研究所 代表取締役
竹中 健	シマフクロウ環境研究会 代表
中川 元	知床博物館 元館長
早矢仕 有子	札幌大学 教授
藤巻 裕蔵	帯広畜産大学 名誉教授
藤本 智	釧路市動物園 園長補佐
山本 純郎	日本鳥類標識協会

<関係機関>

北海道森林管理局計画課、知床森林生態系保全センター、網走南部森林管理署、根釧西部森林管理署、根釧東部森林管理署、十勝東部森林管理署、十勝西部森林管理署、十勝西部森林管理署東大雪支署、北海道開発局開発監理部開発連携推進課、北海道開発局網走開発建設部網走道路事務所、北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課、北海道環境生活部環境局生物多様性保全課、北海道釧路総合振興局保健環境部環境生活課、根室市水産経済部農林課、公益財団法人日本野鳥の会保全プロジェクト推進室

<オブザーバー>

根室市歴史と自然の資料館

<事務局>

北海道地方環境事務所、釧路自然環境事務所、公益財団法人日本鳥類保護連盟釧路支部、特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所

3 会議の概要

(1) 平成 27 年度シマフクロウ保護増殖事業の実施結果及び平成 28 年度シマフクロウ保護増殖事業の実施計画について

各保護増殖事業実施者より、平成 27 年度の事業実施結果と平成 28 年度の実施計画について報告を行った。

◎環境省

平成 27 年度シマフクロウ保護増殖事業の実施結果及び平成 28 年度シマフクロウ保護増殖事業の実施計画について報告。(別紙参照)

◎森林管理局

1) 平成 27 年度実施報告

①巡視事業

・道内の 7 森林管理署等において巡視事業を実施。

②生息地の環境管理

・「シマフクロウ生息環境整備地域」において、モニタリング、遡上改善箇所改良及び環境整備を目的とした間伐を実施。

・釧路及び根室の森林計画区のうち、4 箇所の保護林において夜間定点調査等を実施。

2) 平成 28 年度事業計画

①巡視事業

・詳細未定。

②生息地の環境管理

・生息環境整備地域の設定について、釧路根室森林計画区他の地域での再検討、もしくは営巣箇所周辺の環境整備について検討する。

◎根室市

1) 生息地における繁殖条件の改善及び生息環境整備

・給餌事業を実施。

2) 生息地における監視等

・生息地の定期的巡回を実施。

3) 衝突事故防止対策

・旗及びポールを設置・交換作業実施。

◎釧路市動物園

1) 平成 27 年度報告

①飼育状況

・釧路市動物園で 15 羽、円山動物園で 2 羽、旭山動物園で 1 羽を飼育。

②釧路市動物園における飼育場所

・ペアのトカチとムム、単羽飼いの愛花、ボーボー、ペペ以外は非公開エリアでの飼育。

③普及啓発

・釧路市動物園ではワンポイントガイドを 37 回開催し、約 400 名が参加。

・円山動物園では、野生復帰施設ガイドツアーを 48 回開催し、約 280 名が参加。

2) 平成 28 年度計画

①飼育状況

- ・ 釧路市動物園で 14 羽、円山動物園で 2 羽、旭山動物園で 2 羽を飼育予定。

②繁殖計画

- ・ 釧路市動物園では 4 ペアで臨む。
- ・ 円山動物園では 2 シーズン目のクックとレインのペアでもう少し様子を見る。
- ・ 旭山動物園では今シーズンからモコとロロのペアで臨む。

③保護増殖事業

- ・ 種の保存法に基づく保護増殖事業の確認の期限を迎えるため、現在、新たな確認について申請中。

◎日本野鳥の会

1) 2015 年度活動報告

①生息環境の保全

- ・ 4 振興局管内に 10 ヶ所、515ha の保護区を設置。
- ・ 日本製紙株式会社の協力により、釧路地域の 1,986ha の森林において、シマフクロウの生息地保全と林業の両立を図る覚書を締結。

②採餌環境の整備

- ・ 日高地域で 240kg のヤマメを給餌、根室地域で 100kg のヤマメを給餌。

③繁殖環境の整備

- ・ 環境省の設計を基に、FRP 製巣箱を製作中。

④普及啓発

- ・ 「エコプロダクツ 2015」、「トークイベント」等 4 つのイベントに出展又は開催。

2) 2016 年度活動計画

①生息環境の保全

- ・ 生息地確保のために、土地の購入や協定による野鳥保護区の設置や拡大を進める。

②採餌環境の整備

- ・ 日高地域および根室地域で給餌を引き続き実施。

③繁殖環境の整備

- ・ 今年の秋ぐらいには野鳥保護区内へ巣箱を設置予定。

④普及啓発

- ・ イベントへの出展や講演会の開催、動物園と協力したイベントの開催も検討中。

<意見等>

- ・ 環境省の給餌は冬季が中心だが、必要な時期に融通が利かせられるようにしてほしい。
- ・ 標識調査の実施にあたり、下見段階等で得られる情報（標識まで至らなかったつがいの

情報等) について、関係者間での情報交換が重要。

- ・釧路湿原野生生物保護センターで繁殖した個体の取扱い（放鳥又は動物園への移管）については、既存の2羽及び今後新たに孵化成長した個体も含め、今後の検討とする。

(2) 関係者からの報告

関係者より、関係する取組について報告を行った。

◎北海道開発局

- 1) 平成27年度シマフクロウ保護増殖に関わる事業実施状況
 - ・4件の事業において調査の実施及び防鳥柵の設置など。
- 2) 平成28年度シマフクロウ保護増殖に関わる事業実施計画
 - ・平成27年度同様に事業を実施予定。

◎日本鳥類保護連盟

- ・平成26年度シマフクロウ基金収支について報告を行った。

◎竹中委員

- ・昨年からの動きのあった6つのシマフクロウ生息地について、説明を行った。

◎根室市歴史と自然の資料館（オブザーバー）

- ・モニタリングをして、効果的な給餌のあり方や、今後自然採餌になるのか給餌を続けなければいけないとかを判断をする際の、基準を作れるような調査が出来ればと考えている。(提案)

(3) 放鳥事業について

環境省より、放鳥の結果及び当面の放鳥計画（案）について説明を行った。

◎環境省

- ・28年度については、生息地の拡大を目的として、平成27年度に放鳥できなかったつがいもしくは2014年生れのオスの個体の放鳥を目指していきたい。
- ・今後の進め方としては、ノウハウを蓄積して、発展化・省力化を図っていきたい。
- ・生息地の積極的拡大を目的とした放鳥11例のうち、上川支庁管内4例、釧路支庁管内5例、胆振支庁管内1例、十勝支庁管内1例となっている。

<意見等>

- ・外山氏提案の給餌場のモニタリングは是非やってもらいたい。

- ・放鳥事業へのシマフクロウ基金の使用についても検討してほしい。
- ・放鳥候補地の選定にあたり、国有林にも事前に情報提供をお願いしたい。
- ・生息適地の情報をいただければ日本野鳥の会で土地と購入することも出来るので検討してほしい。

(4) 給餌について

環境省より、今後の給餌について説明を行った。

◎環境省

- ・シマフクロウ保護増殖事業における給餌等の考え方を案として取りまとめたもの。
- ・保護増殖事業における給餌とは「必要最小限の期間及び量に限って行う」ものであり、それ以外は「餌付け」であるとし、餌付けを行う者に対しては、これを終了するよう指導する。
- ・環境省が実施する給餌事業についても、必要最小限の期間及び量であるかについて、点検を行う。

<意見等>

- ・整理された考え方をマスコミを通じて公表するのは大事である。
⇒案については一部修正の上、合意された。

(5) シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画に係る全体目標

環境省より、シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画に係る全体目標について説明を行った。

◎環境省

- ・シマフクロウ保護増殖事業による一定の成果により、生息個体数が増加傾向にある一方、生息地の集中と分断、また給餌、巣箱への依存といった課題がある。
- ・今までの点の保護から面的な生息環境の保全へということで、平成 25 年の 3 月に、シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画を策定している。
- ・環境省として、シマフクロウの生息地拡大に向けた環境整備の取組を進める一環で、環境整備対象地の選択及び具体的事業を進めるにあたっての数値目標を検討した。
- ・今後は、根釧地域における生息地の連続性と目標つがい数を確保するための対策を検討する。

<意見等>

- ・この全体目標を踏まえて、今後は事業者の方たちに、事業をやる場合の配慮事項みた

いなものを示し、協力をいただくということになると思う。

- ・今回示された重要な地域から外れた地域は配慮しなくてよいといった誤解を招くことがないように出してほしい。
- ・根釧の環境面での取組に力を入れていくのは非常に良い。

(6) その他（長期モニタリングについて）

環境省より、知床世界自然遺産地域の長期モニタリング計画におけるシマフクロウの評価項目について説明を行った。

◎環境省

- ・評価基準である「つがい数と繁殖成功率について遺産登録時の状況がおよそ維持されていること」に対し、つがい数に変化は無く生息は安定していること、また、繁殖成功率については変動が見られるものの現時点では大きな問題とは考えられないと評価した。

<意見等>

- ・科学委員会と保護増殖検討会での議論を共有してもらいたい。

(以上)